

パターンマッチングの高速化についてもう少し考えてみました。構造的なマッチングパターンのマッチングですが、それを2段階にして、先ず出てくる意味記号がパターンにあるかを調べて、あれば、その構造を調べるというものでした。

意味記号をハッシュテーブルのキーに持ち、値のオブジェクトに構造の中の関連するオブジェクトを登録すると、もっと高速に処理できることに気が付いたのでした。

大体、構造は、(TERM;(ID;識別子)(CASE;object_case)(TYPE;品詞)(WORD;単語)(MEAN;+life+human)) というような形式ですので、平坦な構造で、かつ、格と名詞が同一の TERM の配下にあります。名詞が”+human”で、その格が”object_case”かというパターンは一つの TERM オブジェクトにダイレクトにアクセスできれば、高速なマッチングができますので、有利です。

ハッシュテーブルですからメモリは食いますが、それなりに高速になるはずで、あと考えて行くべきことは、機械学習でデータを作っていくことですね。

おわり